



**活動場所**  
四十三山・洞爺湖温泉  
共同1号源泉・  
足湯「薬師の湯」

**参加者**  
5年生：14名  
6年生：15名

## 洞爺湖温泉小学校JPR3回目『火山の恵みを調べよう』 2007年11月1日（木曜日）

みんなが子どもパークレンジャーとして活動する最終回。あいにく当日は雷と大雨。この3回シリーズで火山をテーマにしたプログラムを終えて子どもたちの心にどんなことが残ったでしょうか。火山をテーマに子どもパークレンジャーとして、自分たちが住んでいる支笏洞爺国立公園の自然を様々な視点から調査し記録をつくりました。この活動を通して、自然の威力や、自然が再生するには時間がかかることを知り、自然の大切さを理解してくれたことだと思います。

### グループでまとめ



1. 前回行った噴火後7年後、30年後、64年後の植生・土壌調査のおさらい。各調査場所で特別に採取した土のPHを調べ、世界中の土の色見本が載っている本でどんな色かを確認しました。
2. 洞爺湖温泉のお湯を管理している洞爺湖温泉利用協同組合の方に温泉の仕組みを教えてもらいました。洞爺湖の温泉は97年前の噴火後に発見されました。湖水が四十三山周辺の地中で対流し、それが高温の火山性ガスにより温泉となって出てきます。

### 温泉の源泉調査



### 100年の森調査



3. 四十三山の麓にある源泉と火口跡に調査に行きました。洞爺湖温泉の源泉は12カ所あり、それぞれ小さな小屋の中で管理されています。中には地下100mまでのびている配管があり、そこから温泉を汲み上げているのです。汲み上げたばかりの源泉を試飲し、PHを調べてみました。温度は約52℃で無色透明。PHは6.8~7.0の中性。子どもたちは「あんまりおいしくない」という感想が多かったですが、源泉を見て、触れて、洞爺湖の温泉をより身近なものに感じたようです。
4. ここでは、明治43年の噴火によって裸地になってから約100年後の植生を見ることが出来ます。この時の噴火では45個の火口を作り、ミズナラやイタヤカエデの豊かな森になった今でも大きく深い火口がひっそりと残っています。子どもたちは噴火当時の写真と比べて、違いに驚いていました。土壌調査ではミミズやカタツムリ、ワラジムシといった虫を見つけ、最初に調査した2000年噴火の西山と比べ多くの種類の虫がこの豊かな土壌で生息していることがわかりました。

### 四十三山調査



5. 調査後は、各源泉の小屋から集められた温泉が貯槽された巨大タンクや、温泉街にある足湯や手湯を見学し、温泉がどのように活用されているかを学びました。

6. 洞爺湖ビジターセンターへ戻り、活動2回目に作成した調査結果の模造紙を完成させ、リーダーと一緒に4ヶ所の違いをふりかえり、火山がもたらす恵みって何だろう？というのをみんなで考えました。すると、温泉、研究、観光、教訓、火山の知識・・・など沢山のキーワードが出てきました。火山が噴火すると多くの被害があるけれど私たちに様々な恵みも分けてくれるということを知ったようです。

### 土の酸性度調査



### 最後に

